

令和 8 年度 長崎国際大学社会福祉学科編入学試験（国内 A）

<模範解答>

高齢者や障害者の消費者トラブルは、判断力の低下や孤立などにより被害が発見されにくく、被害が深刻化しやすい。そのため、消費生活センターだけで対応するのではなく、福祉分野と連携した継続的な支援が必要であると考ええる。

まず重要なのは、地域全体での見守り体制の構築である。高齢者や障害者は、日常的に介護職員や介護支援専門員（ケアマネジャー）、民生委員や訪問看護師、地域包括支援センター職員などに関わることが多い。そのため、同じ商品が大量にあったり、お金の管理ができていないといった小さな異変に気づける関係づくりが重要である。消費者被害は早期発見が重要であり、福祉職が日頃から利用者の生活状況を把握しておく必要がある。

また、被害の発生後は、生活全般の支援や心理的支援も必要となる。被害を受けた高齢者等は、自信を失ったり、周囲に相談できず孤立したりする場合がある。そのため、単に契約を取り消すだけでなく、安心して生活を続けられるよう支援することが求められる。必要に応じて成年後見制度を利用することや金銭管理の支援、家族との連携なども検討する必要がある。

さらに、地域住民への啓発活動も重要である。悪質商法の手口や相談窓口について学ぶ機会を設けることで、地域全体で被害を防ぐ意識を高めることができる。また、地域住民同士が日頃から声をかけ合える関係を築くことも、孤立防止や被害の早期発見につながる。特に一人暮らし高齢者の場合は、地域とのつながりが重要である。

加えて、福祉・医療・行政・地域住民が情報共有を行い、必要に応じて迅速に対応できる体制づくりも求められる。多職種が連携することで、より安心して暮らせる地域社会につながると考える。

このように、消費者トラブルへの対応には、消費生活センターと福祉分野が連携し、早期発見・継続支援・地域での見守りを行うことが重要である。

令和 8 年度 長崎国際大学社会福祉学科入学試験問題
編入学試験 小論文（国内 B）

<冊子の問題文面>

地域共生社会とは、高齢者や障害のある人、子育て家庭、生活困窮者などが地域の一員として支え合い、誰も孤立しない社会を目指す考え方である。地域共生社会を実現するためには、高齢者を単に「支援を受ける存在」としてではなく、「地域の中で共に生き、役割を持つ存在」として捉える視点が求められる。

とりわけ、独居高齢者が地域で安心して暮らし続けるためには、既存のサービスに加え、地域の中での新たなつながりや柔軟な支援の仕組みが必要である。

独居高齢者が地域で安心して暮らし続けるための「新たな支援のあり方」や「地域のつながりづくり」に向けたあなたの考えを 800 文字以内で論ぜよ。

<校正した問題文面（修正した問題文面）>

加筆・修正はありません。

<模範解答>

地域共生社会を実現するためには、高齢者を単に支援を受ける存在として捉えるのではなく、地域の中で役割を持ちながら生活する一人の住民として支えていく視点が重要である。特に独居高齢者は、身体機能の低下だけでなく、孤独感や社会的孤立を抱えやすいため、地域全体で支え合う仕組みづくりが必要であると考ええる。

まず重要なのは、地域の中で自然に人と関われる居場所づくりである。例えば、地域サロンや体操教室、買い物支援を兼ねた交流活動などを通し、独居高齢者が無理なく地域住民と

つながれる機会を増やすことが必要である。その際、単にサービスを提供するだけでなく、誰かと話すことや役割を持つといった関係性を築くことが、安心した生活につながると考える。

また、高齢者自身が地域の支えとなる視点も重要である。高齢者が子どもの見守り活動や地域行事へ参加したり、知恵や経験を地域に伝えたりする活動などに関わることで、生きがいや自己肯定感の向上にもつながる。地域共生社会では、支える側と支えられる側を分けるのではなく、互いに支え合う関係づくりが求められる。

さらに、福祉専門職や地域住民、行政、医療機関などが連携し、日頃から情報共有できる体制も必要である。特に独居高齢者は、小さな体調変化や生活の異変が深刻な問題につながることもあるため、地域全体で見守ることが重要である。最近では、ICT 機器を活用した見守りも進んでいるため、機器の活用も重要である。

このように、独居高齢者が地域で安心して暮らし続けるためには、地域の中で孤立を防ぎ、高齢者自身も役割を持ちながら支え合える関係づくりが重要である。地域全体で共に生きるという意識を持つことが、地域共生社会の実現につながると考える。また、そのような地域づくりは、誰もが安心して暮らせる社会の形成にもつながる。